

---

○議長（土屋清武君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後 2時00分）

---

◇ 福 本 栄一郎 君

○議長（土屋清武君） 一般質問を続けます。

通告順位4番、福本栄一郎君。

（6番 福本栄一郎君 登壇）

○6番（福本栄一郎君） 通告に従いまして、ただいまから一般質問を行います。

平成26年5月に民間の研究機関であります日本創成会議、座長は増田寛也、元総務大臣の人口減少問題検討分科会が公表しました当町の平成52年、西暦2040年の推計人口は、人口移動が収束しない場合、4152人となっております。若い女性、20歳から39歳までをみますと、208人となっております。

また、国立社会保障人口問題研究所が、本年3月に発表いたしました賀茂地域の27年後の平成57年、西暦2045年の推計人口は、現在のおよそ半分の3万1481人、65歳以上の高齢化率は56.4パーセント、0歳児から14歳までの年少人口率は6.6パーセントになると推計しております。

自治体の存続か消滅かの問題であって、非常にショッキングな数字であり、悲壮感が漂っておりますが、日本創生会議や国立社会保障人口問題研究所の発表がなくても、当町では例外なく典型的な超少子高齢化の大波がハイスピードで進行しております。

本年4月1日現在の当町の人口社会構成の状況をみますと、人口は6768人、世帯数は2990世帯、うち高齢者世帯数は1857世帯となっております。高齢者世帯率は62.1パーセントであります。これは、なんと3軒のうち2軒が高齢者世帯となっている数字でございます。

また、65歳以上の人口は3026人であります。高齢化率は44.7パーセントでおよそ2人のうち1人が65歳以上ということであります。1人暮らし高齢者世帯をみますと、726世帯であります。介護保険介護認定者数は539人となっております。高齢者世帯、1人暮らし世帯が漸増しております。また、当町の35地区では既に数地区が実質的な限界集落となっております。

町長は、この松崎町の人口社会構成の状況をどのように捉えているのでしょうか、お伺いいたします。

人口減少問題は、道路や鉄道、雇用、病院、学校設置問題、社会福祉等々産業や社会生活の基盤となるインフラ、生活関連のインフラ整備など様々な要因が複雑に絡み合っていて、総合的な施策が求められることでもあります。

社会生活関連のインフラ整備の中でもとりわけまずは医療問題が喫緊の課題であると思います。

医療問題は、行政だけではなく地域が一体となる。すなわち松崎町全体が取り組まなければならない課題であると思います。

町民の皆様方の暮らしの安心・安全な生活を守るため、町長は医療問題についてどのような考えを持ち、どのように取り組み、どのようなビジョンを描いているのでしょうか。

そこで、私は、通告どおり医療問題についての一般質問を行います。具体的かつ満足いくわかりやすい明確な答弁をお願いいたします。

それでは、医療問題についての1点目、本年4月25日から10月31日まで修善寺駅から順天堂大学医学部附属静岡病院までの区間において直通バス運行社会実験事業が行われております。1か月経過した現在の利用状況（西海岸線、戸田線、中伊豆線別）及び松崎町民の利用状況についてお伺いいたします。

2点目、直通バス運行利用モデルコースの西海岸線復路、いわゆる帰りの病院発第2便12時10分発、第4便12時35分発は、乗車が困難だと思いますが、いかがでしょうか。また、乗車できなかった場合の対策はどのように考えているのでしょうか、お伺いいたします。

3点目、実証実験終了後、利用状況いかにによって交通事業者がバス運行を継続しないことが想定されます。事業が打ち切られた場合、利用者数に関わらず町が単独で実施していくのでしょうか、お伺いいたします。

4点目、11月以降、町が単独で実施する場合の運行形態、事業費、予算対応はどのように考えているのでしょうか。

また、町長の公約や松崎町第5次総合計画後期基本計画に示してある乗り換えなしの松崎からの直通バスの運行はどうするのでしょうか。

直通バスの運行にあたっては、西伊豆町及び伊豆市との連携ができないのか、協議をしたのでしょうか、お伺いいたします。

5点目、国民健康保険制度の一部改正により、平成28年4月から紹介状なしで大病院を受診した場合、定額（初診時5000円以上、再診時2500円以上、それぞれ別途消費税が加算されます。）の別途負担が義務化されました。国では近くの「かかりつけ医」、「家庭医」、は

しご受診はやめまじょうと呼びかけておりますが、なぜ第3次救急医療施設である遠距離の順天堂大学医学部附属静岡病院なのでしょうか、お伺いいたします。

6点目、遠距離の大病院よりも、下田市・賀茂郡5町で組織、設立している公設民営の下田メディカルセンターへ通院する利便性の向上や医師の確保をはじめ、診療科目の充実を図り地域住民のニーズに応えるべきではないでしょうか、お伺いいたします。

7点目、公約で掲げました岩科小学校跡地への診療所誘致はどの程度進んでいるのでしょうか、お伺いいたします。

以上、壇上からの質問を終わります。

(町長 長嶋精一君 登壇)

○町長(長嶋精一君) 福本栄一郎議員の医療問題についての7つの質問でございます。

まず、1つ目、順天堂大学医学部附属静岡病院へのバスについては、1か月経過しました。

その利用状況と松崎町民の利用状況はどうかという質問でございます

南伊豆・西伊豆地域公共交通活性化協議会では、順天堂大学医学部附属静岡病院への利便性向上を図るため、修善寺駅での乗換1回とした実証運行を4月25日から10月31日までの平日で行っております。

5月24日までの運行19日間の利用状況は、修善寺駅発の往路2便の利用者数が71人、順天堂大学医学部附属静岡病院発の復路2便の利用者数が13人となっています。

それぞれの市町の利用状況は、定期的に職員がアンケート調査で修善寺駅からバスに乗った際の結果でしか把握できておりませんが、松崎町民の利用者はアンケートをとった5日間で3人となっております。

2つ目、帰りの2便は、利用困難ではないか。それと、乗車できなかった場合はどうするのかという質問でございます。

先ほどご回答申し上げましたとおり、修善寺発の往路便の利用者は71人でしたが、復路便は13人となっております、利用者は大きく減っております。

診療時間の関係で、帰りのバスにどうしても間に合わない場合もあるでしょうし、なかには他の場所にも寄るためバスを利用しないということもあるかと思えます。

このため、実証運行に際して、南伊豆・西伊豆地域公共交通活性化協議会から、順天堂大学医学部附属静岡病院に対して帰りのバスに間に合うよう配慮していただきたいとの要望も出しているところでございます。

なお、乗車できなかった場合は、バス、電車による従来の交通路線を利用させていただくこ

とになりますが、今後協議会の場において検証していく中で課題提起してまいります。

3つ目の質問でございます。実証実験終了後、利用状況に対して打ち切られた場合、利用者数に関わらず町が単独で実施していくのかという質問でございます。

今回、実証運行を実施するにあたって、1日あたりのバス利用想定人数を20人としておりますが、5月24日現在の1日あたりの利用者数は4.4人となっております。想定人員に届いていないのが現状であります。

まだ、実証実験を行っている最中であり、11月以降の継続については現時点で決まっておりませんが、まずは多くの皆さまにご利用いただけるよう、事業を検証し改善すべきところは改善することを協議会で協議し、運行継続に向けて働きかけてまいりたいと思います。

質問の4つ目でございます。11月以降、町が単独で実施する場合、その運行形態について、公約であった乗り換えなしの松崎からの直通バスについてどうするのか。それから、西伊豆町及び伊豆市との連携はできないのかについてでございます。

まずは、協議会において11月以降の実証運行の継続に向けて働きかけてまいります。運行廃止となった場合は町として運行方法や事業費について具体的に検討していかなければならないと思います。その際には、同一経路上にある西伊豆町、伊豆市にも連携できないか打診し、協議したいと思います。

なお、西伊豆町、伊豆市は南伊豆・西伊豆地域公共交通活性化協議会の構成市町でありますので、実証運行については協議してまいりましたが、1市2町での運行方法等について具体的な協議はしておりません。

5つ目、国民健康保険制度の一部改正によって、平成28年4月から紹介状なしで大病院を受診した場合、初診時5,000円以上、再診時には2,500円以上の別途負担が義務づけられました。いま、国では「かかりつけ医」を推奨している中で、なぜ第3次救急医療施設である遠距離の順天堂大学医学部附属静岡病院なのかという質問であります。

現在、国では医療機関の機能分化を進めており、ご質問のように、診療所や中小病院などの医師の紹介状を持たないで順天堂大学医学部附属静岡病院などの大病院を受診すると、診察料とは別に特別の料金が徴収されることとなります。

しかしながら、順天堂大学医学部附属静岡病院では、平成28年3月から平成29年2月診療分に係る国保・後期高齢者医療の被保険者に係る医療費だけを見ても2486件と全体の5パーセントを占めており、現在も多くの町民の皆さんが利用されている状況でございます。

これは、紹介状を持たないで大病院を受診すると診察料とは別に余計な料金を徴収される

ので、そういう方は少ないと思いますが、現実的には専門性や高度な医療を求めて順天堂大学医学部附属静岡病院へ通院されているのではないかと考えております。

町としては、順天堂大学医学部附属静岡病院への通院を勧めているわけではございませんが、実際に町内から通院され、その交通手段に困っている町民の皆様が大勢いらっしゃいますので、4月から直通バスの実験運行を実施しているものでございます。

どうか、このような事情をご推察の上、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

福本議員の質問の6点目でございます。

遠距離の大病院よりも、下田メディカルセンターへ通院する利便性の向上や診療科目の充実を図った方がいいのではないかとという質問でございます。

下田メディカルセンターは、賀茂郡1市5町で設立する、一部事務組合「下田メディカルセンター組合」から指定管理を受けた静岡メディカルアライアンスが運営している公立病院で、ご承知のように平成24年5月に開院いたしました。

当センターの診療体制は、平成29年4月1日現在の一般病床数が146床、診療科目も内科や外科、耳鼻咽喉科、泌尿器科など16の診療科目があります。医師は、常勤・非常勤を合わせて44人、看護職員も104人います。

また、入院を必要とする重症者を受け入れる第2次救急医療施設として、賀茂地域には、なくてはならない中核的な病院となっておりますが、心筋梗塞など診療対応ができない重症者については、順天堂大学医学部附属静岡病院などの高次医療機関と連携して患者様の受け入れをお願いしている状況でございます。

ご質問の通院に係る利便性向上や医師の確保等に向けた方策については、下田メディカルセンター組合議会があり、その中でご協議をいただいておりますので、町としての考え方は差し控えさせていただきたいと思っております。

下田メディカルセンターは、賀茂郡唯一の公立病院ですので、今後とも当センターが町民の皆様のさまざまなニーズに応えられるよう、町として引き続いて組合へ要望等をしてまいりたいと考えております。

福本議員の最後の質問でございます。公約で掲げた岩科小学校跡地への診療所誘致はどの程度進んでいるのかについてでございます。

診療所の誘致につきましては、午前中の藤井要議員のご質問でお答えいたしました。現在は、旧岩科幼稚園の施設を診療所として活用すべく協議を進めているところでございます。

しかしながら、診療所を開設するためには、一番重要である医師の確保が不可欠であり、現在はその確保に全力を尽くしている状況でございます。そして、医師の確保ができ次第、次の段階として診療所の開設に向けた各関係団体との調整、あるいは診療所建設に係る資金調整などに取り組んでいきたいと考えております。

岩科地区に診療所の誘致ができれば、近い将来、医療過疎が心配される当町にとって、地区の皆さんはもちろんのこと、町民の皆さんの安全安心に繋がりますので、どうか住みよい町づくりのため、ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

○6番（福本栄一郎君） 一問一答でお願いします。

○議長（土屋清武君） 許可します。

○6番（福本栄一郎君） それでは、ただいま町長から答弁をいただいたんですが、個別にいきたいと思います。

まず、その前に町長にお伺いいたしますけれども、順天堂病院に見舞い以外で受診したことがあるでしょうか。プライベートな関係で申し訳ないですが、何科はいりません。順天堂の玄関に入って、診療受付、初診なり再診で行ったことがあるでしょうか。まず1点、最初にお伺いいたします。

○町長（長嶋精一君） 見舞い以外にはありません。

○6番（福本栄一郎君） それは健康でいいですね。病院というのは、健康な人間は関係ないですよ。人間ドックとか定期健診、職場健診以外でしたら、別に用事がないですよ。見舞いだったらまた別ですけども・・・、順天堂に行きますと・・・、あとは関連しますけれども、いわゆる第三次救急医療センター、これは担当課長が答えればいいですけども、いいです。答えなくても・・・。いわゆる救急医療センター・・・、ですから、ちょっとした風邪を引くとかあれはもうかかりつけ医にかかってください・・・。第三次救急医療センターは、ドクターヘリ・・・、もう毎日のように来ていますよね。救急車も何回来ているかわかりません。心疾患、脳疾患・・・、高度専門科の医療を果たす・・・、順天堂大学医学部附属静岡病院なんです。

ですから、国の方では、もう患者さんに来てもらっちゃ困るということは・・・、これはもちろん基本的人権に反しますので、これはできない。

ですから、保険証を持っていれば駆け込みます。だけど、1日1000人以上は来ています。私もいつも行っています。昨日も実は行っていました。もう午前中だけでも薬の方で番号札がもう700～800・・・、午後になりますと、1000・・・、多い時には1500近くになっています。

そういったことで、高度専門化の医療をしなければならない。下からは救急車、上からはドクターヘリが下りてくる。医療スタッフの人たちもドクター、看護師さん全てそちらへと集中します。

ですから、予約なしで行った場合は、もう2時間～3時間、4時間待ち、こういった状態なんです。非常にいま国の方でも働き方改革をやっていますけれども、もう限界のようです。私は見ただけですよ。院長と話をしたわけではないですけども・・・。

こういった中で、なぜ順天堂病院であるかということを知りたかったわけです。実際体験してみればわかります。そういった中で、松崎町の1番目の質問で、利用人員が3人ということで先ほど答弁をいただきました。この中でみますと、モデルコース、これは東海バスの窓口に行ってもらってきました。そうしたら、役場のカウンターにもあるということで・・・、私は東海バスへ時刻表と一緒にもらいに行ってきたんです。

松崎の第1便が6時05分、順天堂大学医学部附属静岡病院が8時18分、3便が10時で12時30分着、帰りが第2便が12時10分病院発、4便が12時35分、なぜか12時35分発の遅いバスの方が松崎到着が2時22分となっていますが、この辺はよく調べたら、特急バスを使用しているようなことがあります。

その辺の考え方でいきますと、順天堂大学に8時18分に着きますと、診療開始が朝8時半からドクターの診療開始、受付は朝7時に玄関が開きます。その7時に開く前に6時頃から順番を取るために着いております。

ですから、8時18分で着きますと・・・、あとで関連でお願いしますけれども、もう帰りの12時10分、12時35分には到底乗れないと思います。それから、なおかつ救急が入りますと救急が優先になりますから、それで、診察が終わって会計に行ってお金を払って薬が出ればだいたい2時か3時になる。とてもじゃないが、このバスには乗れない。

しかも、これをよく見ますと戸田線、中伊豆線に合わせてある。こちらの発車時刻に合わせてたんですよ。さすがは伊豆箱根さんだと思いますけれども、その辺はいいです。

ですから、その辺の利用状況を先ほど聞いて、ありがとうございます。

そして、その中で、乗車できなかった場合のことは、従来のバス、電車ですか、こういったことになると、朝6時に行って・・・、これは松崎駅ですよ。これは、例えば、池代地区であるとか、門野地区、八木山地区の場合は、朝何時に起きてここまで来なければならないですか。当然朝飯は食べてくるでしょうけれども、お昼は当然抜きますよね。帰りはもうない、帰りはじゃあ電話をかけて家族の方に松崎の駅に着いたから、迎えに来てくださ

い、あるいはタクシーで帰る方・・・、非常に・・・、町長が考えてやってくれることはありがたいと思うんですけども、時間的に拘束されて非常に不便極まりないと思いますけれども、その辺の考え方はどうでしょうか。もう一度伺いたいと思います。乗車できなかった場合・・・。

○企画観光課長（高橋良延君） 福本議員がおっしゃいました帰りの便ですね。先ほどいいました行きの便は71名の利用、帰りの便は13人の利用ということを考えると、そこは診療時間が大幅に伸びて帰りのバスに間に合わなかったという人もいるでしょう。

中にはほかの用足しもしながら帰りのバスには乗らないで帰るという方もおるかと思えます。ただ、やはり問題なのは、診療時間が延びて帰りの便に間に合わないという問題がありまして、そちらについて私ども協議会の方でも順天堂の方には西伊豆地域の方については、バスがあるので、精算を早くしてくださいという要望は出しているんですけども、なかなかそこまで全部がそれに間に合うということは不可能であるかなと考えています。

帰りの対策につきましては、これは、今後また協議会でこういった問題が出てきていますので、それは実際に帰りの便を例えば、後ろにずらすとか、そういったことについての具体的な協議、課題提起はしてまいりたいと思います。

当面は、帰りの便は申し訳ありませんが、もし間に合わなかった場合は、従来の交通路線ということでご容赦いただいているところでございます。

○6番（福本栄一郎君） 担当課長が答えたように・・・、もちろんわかるけれども、町でこのバスをやるから乗ってください・・・、帰りは適当に考えてください、これじゃあ行政として、送るだけ送って行って、帰りは間に合わなかったら、ほかのバスで・・・、それじゃああまりにも行政としてはちょっと片手落ちではないか。

病院へ行くということは、冒頭申し上げたとおり、健康な人は病院は関係ないんですよ。体が弱い、ですから、私はこの演説の中でもう2人に1人が高齢者世帯・・・、松崎町・・・、町長が目指している満足度の高い安心・安全なまちづくりは、まず医療からです。

いろんな課題がありますよ。いっぱい・・・。その中でも、現在0歳児から100歳以上はもちろんいますよね。すべて病院に何らかの形でお世話になります。

機械は故障がある、人間には病気ということがあります。必ずお世話になると思うんです。そういった中で、町が、じゃあ、地域公共交通会議でやりましたから・・・、じゃあ、帰りはどうするか。むしろ帰りの方が不安じゃないですか。夜もだんだん・・・、今は、夏場は明るいからいいけれども、だんだん陽が沈んで日が短くなって、暗くなる。しかも修善寺か

らまた1時間30分くらいの時間をかけて来なければならない。

その辺を考えると・・・、しかも、お昼も食べられない。朝ご飯は食べてくるでしょうけれども、そういった時間で・・・、あまりにも行政として・・・、もうちょっと心のある時間配慮をしたいと思いますけれども、その辺はどうでしょうか。

○町長（長嶋精一君） 福本議員から一番最初に質問された私は順天堂病院に行っていますかということで、薄々そういうことが後で質問がくるだろうなと思っていますけれども、私は、順天堂病院にかかってはおりませんが、結構見舞いに行っているいろんな人の考え方を聞きました。だから、全く無関心ではなくて、非常に感情豊かに患者さんのことを思っています。

そういうことで、議員の時に順天堂病院行の直通バスの署名運動を私は展開したわけでありまして。700名以上の方々の署名をいただきました。そういうことが講じて、この順天堂病院行の直通バスの開始になったわけでありまして。

地域公共交通活性化協議会という存在があるわけですが、なかなかこう着状況が続いて、これを実行するのに大変だったんですね。

したがって、福本議員がおっしゃっている意味は非常にわかります。中途半端にしてはいけないということもわかります。

ただし、最初から100パーセント全部が皆さんに充足したこういう運行バスというのは不可能だと思いま。

私の考え方というのは、とにかく60パーセントの出来でいいから実行しようじゃないかということが、私の言ってみれば心情であります

いま福本議員がおっしゃったことはそのとおりだとそのとおりでございますので、これについては、全て全部が全部スタートから帰りまで充足はできないかもしれませんが、強く地域公共交通活性化協議会で求めていきたいと思っています。以上です。

○6番（福本栄一郎君） 町長のおっしゃることはよくわかります。

次にいきます。3番、4番は個別の質問では一緒になると思いますけれども、伊豆箱根さんが地域公共交通活性化協議会の中でおっしゃったんですよ、確か・・・、半年間やってみて、うちも数少ないバス、数少ない運転手さんをやり繰りして半年間やってみます。県からも依頼されていますから・・・、そういった場合に、10月31日ですよ。これにもありますけれども、4月25日から10月31日までやる。これ以降を町でどうするかということは協議しているというんですけれども、あの間には当然4番目の質問になりますけれども、予算対応、

運行形態、事業費はどういうふうを考えているんですか。

通常でいくならば、継続する・・・、だいたい9月になればわかると思うんです。だいたいの数値が・・・。まだ今は始めて1か月ちょっとでしょうから8月の終わり頃にはだいたいの流れがつかめてくると思います。それについて補正予算で対応しなければならない時期がくると思うんです。これは12月では実際切れるわけですね。予算がないですから・・・。だったら、最低でも定例会でしたら9月あるいは臨時議会ということもあるでしょうけれども、その辺の考え方を教えてください。

○企画観光課長（高橋良延君） 実証実験については10月31日までやりますので、町長がお答えしました。まずは、実証実験を11月以降運行継続していくということがまず第一で考えたいということで、まずそれは申し上げたところでございます。

それで、その協議会の方につきましては、7月において一応中間のとりまとめといいますか、第1回目の検証といいますか、それをやる予定でおります。

乗車人数、アンケート等を分析して、それから9月下旬に第2回の協議会を開きまして、その後の運行継続等についての具体的な協議をしていくということでございますので、これはあくまでも仮定の話になってしまいますので、まずは11月以降もこの実証運行がそのまま継続するようにやっていると・・・、その実証運行の継続についても先ほど福本議員が言いましたように帰りの便の時間とか、そういった中身も現に改善できるものは改善していけるのかどうかを含めまして、より利用者が利用しやすいような形でこの運行継続をまずやっていくということで、そこに全力で取り組んでいきたいと思っております。

単独についてうんぬんということは、具体的な協議はしておりません。

○6番（福本栄一郎君） それにつきましては、一応定期的に行っている足のない方、免許証を持っていない方、免許証を返上した方、いろいろあります。その人たちの期待を裏切らないように行政として、松崎町としてやってもらいたいとお願いしたいと思っております。

これはたしか町長が言うには、100パーセントこれは不可能です。だいたい6割以上あればいい。その6割の中でもせっかく行ってくれている・・・、慣れてきました・・・、修善寺で1回乗り換えて・・・、非常に便利ですという人が必ずいますので、その人たちの期待を裏切らないように継続してやってもらった方がよろしいかなと思います。それは以上です。

次に、5番目、国民健康保険制度の一部改正でいわゆる大病院、これは先ほど私は申し上げましたけれども、国の方では、第三次救急医療センターの役目というのがあるんですね。先ほど申したように心疾患、脳疾患、救急・・・、本当の人の生命・・・、1分1秒を争う病院

の・・・、専門病院です。

ですから、ちょっとした風邪とか、それぞれいろんな症状があるでしょうけれども、かかりつけ医・・・、あるいははしご受診・・・、一般的に人間の心理というのは、大病院へ行けば安心するということがあるんですよ。人間の心理で・・・。個人の病院よりも・・・。個人の病院の方には失礼だと思うんですけども・・・。大病院に行けば、先生もいっぱいいます。診療科目によってね・・・。いわゆる開業医の方はだいたい1人、あと看護師さんたちがいます。

確かに順天堂は玄関のところにいっぱいいますよね。私は数えたことはないんですけども、100人以上いるんじゃないですか。診療科目はだいたい25～26あると思うんですけども・・・、だから、その安心感があるんですよ。

だけど、そうじゃなくて、かかりつけ医の方も全部把握していると思うんです。かかりつけ医、いわゆる家庭医、それと、かたや国保会計の中じゃなくてもはしご受診をやめましょう・・・、安易に行ってはいけません。それは、国は、もう基本的に、先ほど言いましたけれども、基本的人権を侵さないように・・・、どこでもいいんです。医師法で診なければならぬ・・・、順天堂のドクターなんてのは、ご飯を食べてないですよ。お昼は。

それで、当直明けから連続勤務、ご飯は食べておりません。昼飯は・・・。食べるとしたらば、3時か4時でしょう。午前の部を片づけてからだと思います。そんかい忙しいんです。

○議長（土屋清武君） 福本君、要領よく質問をしてください。

○6番（福本栄一郎君） 順天堂を推奨しているようですけども、この別途負担というのは、5000円プラス消費税、初診時ですね。この辺の考え方はどう思いますか。

○健康福祉課長（新田徳彦君） 紹介料ということで、診察料とは別に5000円ほどですか、かかるということに対しての考えだと思えますけれども、これは国策といたしまして、医療制度の改正で、平成28年の4月から紹介状がないと診察料とは別にお金を取られますよというようなことが決まったわけです。

基本的には、いきなり診療所や中小の病院を経ないで直接行ってしまいますと、患者様の方は損をするわけです。そういうケースはあまり多くはないと思っているんですけども、現実問題的には、年間で2500件ほど順天堂病院の方へ行かれているという現状があるわけでございます。

先ほど町長の答弁で答えましたけれども、決して町としては一医療機関を勧めているわけではないんですけども、現実問題としてそういう患者さんがいらっしゃるものですから、

先ほどの順天堂病院の直通バスですとか、そういったことをただいま実証運行ということでやっているところがございます。

- 6番（福本栄一郎君）　ですから、これは、初診時5000以上、これが再診時は2500円以上、これは病院長の判断にお任せだそうです。上限はないそうです。これは医療費の税務の対象になるそうですけれども、これは保険の対象にならない。我われの3割負担じゃなくて、全額ということです。その辺も松崎町としては考えてもらいたい。以上です。

次に、6番目、遠距離の大病院よりも公設民営化でやっている下田メディカルセンター、この下田メディカルセンターも私もだいぶお世話になってはいますが、順天堂大学病院から派遣の先生が来ております。眼科、泌尿器科それから小児科、産婦人科等々、これは今井浜病院も順天堂病院から派遣の先生が行っています。

ですから、当然こっち・・・、下田・河津に来ている時には、順天堂はその先生はお休み・・・、ですから、ここで私が言うのは、近くの中でやったらどうでしょうか。

特に産婦人科、これはどこでも日本全国的に先生が不足しているそうです。一極・・・、東京あるいは関西の方で集中している。田舎にはなかなか回ってこない。その反動が、昔いつている里帰り出産ができない・・・、娘さんの・・・、大事な娘さんをよそに出して・・・、お母さんに面倒みてもらって・・・、帰ってきててもこれができない。

いま賀茂郡下でもだいたい順天堂なんかが多いようですね。その辺の考え方が・・・、私は近くの1市5町でやっている下田メディカルセンターの方を充実した方が得策じゃないかと・・・、時間も短くすむ、しかも初診時の5000円以上を取られない。

これは、今まで500ベッド以上が今は450に下がったそうです。ただし病院長の判断によるものです、ですから、今井浜病院、メディカルセンターは当然ベッド数が・・・、先ほど町長が言いましたように146床、16科目、16科といたしますけれども、この辺を充実する・・・、町として・・・、しかも一部事務組合で・・・、町長としてほかの1市4町の市長、町長に働きかけるお考えがあるでしょうか、お伺いいたします。

- 町長（長嶋精一君）　福本議員の最初からの疑問があると思いますけれども、町としては、決して順天堂病院の方を推奨しているわけではございません。あくまでも、かかりつけ医としてこの町の中江医院さん、石田医院さん、それから隣町の西伊豆病院そういったところに行っていただくのが一番いいと思います。経済の合理性もありまして一番いいと思います。

それと、下田の下田メディカル、こちらの方にも行っていただきたいと思いますが、こればかりは、お客さん、患者さんを誘導するわけにはいかないんですよ。あくまで

も患者さんが選択をするということで、この鉄則を曲げるわけにはいかないと思います。お客さんが選んでいるということでありまして、なんで順天堂病院の直通バスを・・・、私は議員の時に署名運動をやったかという、沼津方面に行く方はみんな重篤な病気を抱えているわけです。必ず重い病気を抱えているんですね。その中で、岡村記念病院さんとか、西島病院さん、静岡医療センターさん、いろいろありますけれども、その中で一番多いのが順天堂病院なんですね。

だから、こうやって1軒1軒回っている時に、何とかしてくださいという訴えるような話がありまして、それで、そういう運動をやったんですけれども、そういうことですので、私の方から、町の方で決して誘導しているわけではございませんので、それだけご理解いただきたいなと思います。以上です。

○健康福祉課長（新田徳彦君）　メディカルセンターへ産婦人科というなお話があったわけでございますけれども、ちょっと2～3年前にも当議会において産婦人科誘致のお話があったかと思いますが、こちらは、議員もご承知のとおり非常にシビアな問題がありまして、最悪の場合、訴訟問題とか、そういうことに発展したということもございました。

下田市にも産婦人科の医院とかがございますので、下田メディカルさんの診療科目うんぬんにつきましては、組合議会がありますので・・・。個人的には、誘致をぜひお願いしたいと思うんですけれども、組合議会での議論になると思いますので、ここでの答弁は差し控えさせていただきますと思います。

○6番（福本栄一郎君）　時間がないものですから・・・。延長しなくてもいいです。

医療関係・・・、空き家対策をやりましたよね。前の齋藤町長の時に・・・、約150軒くらいです。その時のアクセスですか・・・、だいたい病院がありますか、近くにスーパー・・・、いわゆる日常の買い物ですね。「ありません」と言う「じゃあ、いいです」・・・、なぜ移住してくる人たちがいうのは・・・、病院があって、買物に不自由ないのが、いわゆる安心・安全です。生活に何不自由なく・・・。ですから、私は地元のかかりつけ病院・・・、この中でも大きな病院は家に往診に来てくれない。地元の先生だったら、頼めば家へ往診に来てくれるんです。これが最大の大きな違いだと思います。それぞれの先生もプロですよ。ドクターですよ。大病院は大病院でそれなりの仕事もあります。

それで、個人の・・・、町長が先ほど言ったとおり個人の自由ですから、東京へ行こうと名古屋、大阪へ行こうと個人の自由ですけれども、やはり下田メディカル、第二次救急医療施設、地元という・・・、いわゆるかかりつけ医をもった方が安心・安全な生活ができるという

ことをふまえて、それで、なおかつ町長の満足度の高い町を目指して、安心・安全を与えてもらいたいということをお願いいたしまして、一般質問を終わります。

以上でございます。

○議長（土屋清武君） 以上で福本栄一郎君の一般質問を終わります。

暫時休憩します。

（午後 2時47分）

---